

令和6年度（2024年度）学校評価報告書

※この学校評価報告書は、西谷認定こども園職員の自己点検、これまでにご協力いただきました行事ごとのアンケート及び先日の年度末保護者アンケート結果をもとに、学校関係者評価委員様（本園評議員様及びPTA会長様）にご意見をいただき作成したものです。皆様にもお知らせいたします。

園名	宝塚市立 西谷認定こども 園	園長名	山本 直子
----	----------------	-----	-------

1 学校教育目標

「心をつなぎ たくましく生きる子どもの育成」	— 認めあい 育ちあい 学びあう —
・ 自分のことは自分でしようとする子ども	・ 感じたことを豊かに表現できる子ども
・ 友達と力いっぱい遊ぶ子ども	・ ふるさと「西谷」を愛し、思いやりの心をもった子ども

2 重点目標

○ 一人一人のよさが輝く楽しいこども園づくり	○ 地域の自然、人とのかかわりを通した開かれた園づくり
○ 家庭、地域と共に育ち合う園づくり	○ 研究・研修活動の充実による保育者の資質向

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
園運営	開かれた園づくり ○保護者や地域の方の教育力、地域環境を活用した、園児の生活体験が豊かに広がる保育活動 ○情報発信	A	○ 絵本の読み聞かせや手作り玩具、黒豆の栽培活動、カレー作り等、保護者や地域の方の教育力を活用した保育を実施した。また、積極的に地域に出かけ、自然に触れたり地域の伝統行事に参加したりした。園児が様々な直接体験をする中で、園外の人とのかかわりももてたり、これまで以上に活動の幅を広げたりすることができた。保育時間の使い方を工夫し、より一層豊かな体験を積み重ねていきたい。 ○ 毎日職員が交代でHPの更新を行い、園児の様子を広く情報発信することができた。また、ドキュメンテーションでは、子どもたちの日々の学びが伝わるように努めた。
	危機管理体制の整備 ○危機管理マニュアルに沿った実効性の高い訓練の実施 ○発達に応じた健康・安全な生活習慣が身に付くような工夫	A	○ 月1回、様々な状況を想定した避難訓練を実施した。訓練後には、改善点を出し合い、次の訓練につなげるようにした。回を重ねるごとに園児及び職員の危機管理への意識が高まり、緊張感をもって訓練に取り組むことができた。今後も継続して防災防犯教育の取組や園児の様子を保護者にも発信し啓発を行っていききたい。 ○ 手洗い・うがいや消毒の徹底、給食準備中のマスク着用等様々な感染症対策を行い、感染症の流行を防ぐことができた。今後も園児の発達に応じた各種保健指導に取り組んでいくよう努める。

4 評価項目ごとの学校関係者評価

○子どもが直接体験しながら西谷の自然の素晴らしさや人との温かい触れ合いを感じることができている内容が工夫されている。その中で子どもの主体的に取組む姿が見られ評価できる。特にハロウィンの取組は、園ならではの取組としてよかったと思う。
○ 毎日HPが更新されており、子どもの様子や園の取組を知ることができる。小中学校で、小規模特認校の取組が始まり、広く児童・生徒を募ることになる。園でも西谷ならではの保育やよさを西谷地域以外の方に向け広く発信する取り組みを今後も続けてほしい。
○ 毎月、様々な場面を想定した避難訓練が行われており、どの学年の子どもも落ち着いて避難ができています。日頃から訓練を積み重ねることの重要性を感じる。 ○ 近年、各地で大きな地震が起こっており、南海トラフ地震の話も出ている。子ども達に、津波被害や震災後の水や食料不足等、様々な問題についても知らせる機会をもってほしい。 ○ 園内で感染症が流行することなく安全に過ごせている。園の給食は、子どもの正しい食習慣や食事のマナーを身に付けるよい機会となっている。

子育て支援の推進	○家庭教育力の向上を目指し、保護者の学びや保護者同士のつながりがもてる場の提供	B	○ 個々の職員が、園児の日々の様子や育ちを連絡帳等を利用し、保護者に伝え共に園児を育てていけるように努めた。園内の保護者同士、また西谷地域外の未就園児親子ともつながりが広がるように、園行事やPTA活動、未就園児教室への参加を呼びかけた。しかし、在園児の大半が保育所籍であることから、保護者が仕事のために行事やPTA活動に参加が難しく、また降園時間が個々異なりコミュニケーションがとりにくくなっている。そのため、保護者同士、職員とのつながりがもてるような機会づくりの工夫に努めていく必要があると考える。	○ 園児数の減少が進んでいる園でPTAの存在意義は大きく、子ども達のために存続させてほしい。駐車場の草刈り等、必要があれば地域でも協力したい。 ○ 保護者のPTA活動への参加を促すために、園行事の際に一緒にPTA活動を開催する、茶話会のような楽しい雰囲気作りを行う等の工夫をされてはどうだろうか。 ○ 保護者は、担任の先生と直接子どものかたを話せることが嬉しい。少しずつでもコミュニケーションがとれるように努力してほしい。
	職員の資質向上 ○保育カンファレンスの充実 ○深い幼児理解 ○乳児期から幼児期にかけての発達理解	B	○ ドキュメンテーションや日々の記録から保育の振り返りを行い、園児一人一人の学びや育ちを可視化し次の保育に活かせるように努めた。 ○ 様々な立場の職員が日常的にカンファレンスを行い、園児を多面的に捉えられるように努めた。また保育所職員においては、月1回の月案検討会を定着させ、個々の発達や援助について共有を行った。更に、様々な立場・経験年数の違う職員が、より忌憚なく意見を出し合い学び合えるようなカンファレンスの工夫や園内外の研究会・研修会への積極的な参加を進めることで一層の質の向上を目指したい。	○ 担任の先生が酒信されるドキュメンテーションや学級だよりの内容から、先生が子どもの思いや育ちを丁寧に見つめ大切にしながら保育を行われていることが伝わってくる。 ○ 様々な立場、経験年数に違いのある先生達が抱く悩みやその度合いには、それぞれ違いがあるのではないかと思う。可能な範囲で、外部講師の積極的な招集を行い、一人一人の先生が得意なことに一層磨きをかけ、自信をもって保育に当たってもらえるとよいと思う。
	乳幼児期にふさわしい生活の展開	A	○ 園児の興味・関心に沿った遊びを展開したり発達に応じた玩具を用意したりする等、園児が主体的に「やってみたい」と取り組めるような環境構成や援助の工夫を行った。また、異年齢のつながりを大切にされた保育実践に取り組んだ。縦のつながりの中で、年下児に対する思いやり、年長児への憧れ、その他様々な心揺さぶられる経験を通し、めあてに向かって取り組もうとする意欲や諦めない気持ち等の心の育ちにつながった。 ○ 園内外を問わず西谷地域ならではの自然環境をいかした保育実践に取り組んだ。特に乳児については、天候の許す限り園外に出掛け自然と触れ合いながら、その中でのびのびと身体を動かす楽しさを感じたり、気付き・発見が生まれやすくなるような保育の工夫を行った。	○ 子どもの「やってみたい」という主体性や諦めないという気持ち、人とつながる力の育成は、点数化されるようなものでなく見えづらい部分だが、人として土台となる重要な部分だと言える。しかし、行事等を通し子ども達の育ちを感じることができている。これからも日々の保育を大切にしていきたい。 ○ 乳児の散歩や冬場のジョギング、マラソン大会は、子どもの発達に応じた長く続くよい取組だと思う。今後も西谷の特色、よさをいかした保育を継続していきたい。
教育課程	○子どもが主体的に遊びに取り組み、学ぶ力や人とつながる力の育成 ○子どもが喜んで体を動かし、主体的な遊びや生活につながるような体験の工夫	A	○ 家庭と園での様子を保護者と共有したり、幼稚園職員と保育所職員が連携したりしながら、自分ではできないことは自分ですという意欲が育つように努めた。また、集団の中での生活の仕方が身に付くように年齢や個々の発達に応じ、園児一人一人に丁寧な指導を進めることができた。	○ 一人一人の発達に応じ、丁寧に指導されており、自分のことは自分ですという気持ちや習慣を身に付けさせていただいていると感じる。引き続き丁寧な指導に取り組んでいただきたい。
基本的な生活習慣の育成	○個々の発達に応じた、園生活全体を通じた基本的な生活習慣の確立	A		

	人権教育	<p>○子どもの年齢に応じたふさわしい人権意識の育成</p> <p>○保育者自身の人権意識の向上</p>	<p>A</p> <p>○ 日常の遊びや生活の中で、友達の気持ちに気付けるように思いを橋渡ししたり、友達のかかわりについて自らの行動を振り返り、どのようにすれば良いかを考えたりできるような援助に努めた。</p> <p>○ 西谷の自然の中での動植物との触れ合いを通し、命の尊さについて考えられるような機会を大切にしてきた。</p> <p>○ 西谷中学校区人権ブロック研修会の取組の中で、職員が園児一人一人を大切にした保育について改めて考え合い、人権意識を高めることができた。</p>	<p>○ 日々の保育や生活の中で学級や異年齢の友達と関わりながら様々なことを感じたり自分の行いを振り返ったりすることが大切であり、基本である。人としての根っこ、土台の部分をしっかりと育てておけば人権意識は自ずと育ってくると考える。</p> <p>○ 西谷の自然の中で命あるものと触れ合い心揺さぶられ、自ら考えることは、子どもにとって貴重な経験である。今後も大切な機会として取り組んでいきたい。</p>
課題教育	校種間の連携	<p>○連携の意義を意識した交流の実施及び職員間の連携</p>	<p>A</p> <p>○ 園小中の管理職で定期的に打ち合わせをする機会をもち地域の子どもたちの情報を共有した。それらの情報をもとに園・小・中の交流・連携を進めることができた。</p> <p>○ 管理職だけでなく他の職員もつながりをもてるようになってきたことで、園と小学校、園と中学校の新たな交流の機会を増やすことができた。その際には、互恵性を感じられる交流となるように、事前の打ち合わせや事後の振り返りを行い、各校園の子どもたちの学びについて話し合いながら進めることを意識した。</p>	<p>○ 今年度、これまで以上に小中学校との交流、連携が進んでおり評価できる。小学1年生とのコマの交流では1年生が張り切ってコマの練習をする姿が見られる等、小学生にとってもよい機会になっていると感じることができた。また、中学2年生の英語科授業の交流から広がったハロウィンの取組は地域も巻き込んだよい取組だったと大変評価できる。今後も一層のつながりの広がりを期待している。</p>
	特別支援教育の推進	<p>○個々の課題の発達と課題の把握と個別指導計画に基づいた支援内容の工夫</p>	<p>A</p> <p>○ 個別指導計画を作成し、学期毎に園児の姿を多面的に捉えることを意識しながら振り返りを行い、具体的な目標や手立てについて協議・共有しながら支援できるように努めた。</p> <p>○ 乳児クラスや未就園児の保護者と、子どもの姿や発達について話し合い共有した。対応が必要な場合には、病院や療育等、外部施設への相談へつなげることができた。</p>	<p>○ 個々の指導計画の作成に努め、子ども達一人一人の特性、課題を職員間で共有し手立てを考えながら対応している様子が感じられ評価できる。</p>
独自項目	保育者同士の連携・協働体制の確立	<p>○異年齢保育の充実に向けた保育者間の連携</p> <p>○幼稚園職員と保育所職員の連携</p>	<p>B</p> <p>○ 異年齢（3・4・5歳児）で、ハロウィンや生活発表会の遊びに取り組んだ。また、0・1・2歳児も同じ保育室であることをいかし異年齢での活動に取り組んでいる。異年齢保育での学びが今まで以上に有意義なものとなるためには、担任が各学年のねらいを明確にもち、連携し合いながら保育を進めたり環境を整えたりする必要がある。今後、よりスムーズに保育が進むように先を見通した計画や綿密な打ち合わせを行い保育の充実を目指したい。</p> <p>○ 幼稚園職員と保育所職員との連携では、互いに保育を見合ったり、園児と一緒に遊んだりする機会を通し情報交換を行っている。しかし、勤務体制の違いから十分な時間を設けることは難しいところがあり、連携のとりかたには引き続き工夫が必要である。</p>	<p>○ 行事や日々の保育の中で、各学年の担任同士、また幼稚園と保育所が連携、協力しながら取り組んでいることが感じられる。</p> <p>○ 生活発表会直後、その場で学級の子ども達をしっかりと抱きしめる担任の姿が大変印象に残った。抱きしめられた学級の子ども達からもとても嬉しそうな表情が見られ、その日、落ち着いて発表に向かっていった子ども達の姿と結びつき、担任の先生との信頼関係の大切さを改めて感じた。異年齢保育の充実には、各学級での保育の充実が不可欠であると考え。このことを忘れず異年齢保育に取り組んでいきたい。</p>

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○ 行事ごとに保護者へのアンケートを実施し意見集約を行っており、いただいた意見には対しても丁寧な園の意見を載せている。また、幼稚園評議員や評価委員、来賓等、外部の意見も参考にしており適正に実施されている。

6 総合的な学校関係者評価

- 園児数が減少している中、異年齢混合保育や小中学校や地域の人との交流・連携を進める等、子ども達が人との関わりをはじめとする様々な活動の幅が広がるように取り組まれていることが分かる。
- 西谷の自然環境を保育に取り入れたり、地域行事に参加し西谷の伝統文化を子ども達に知らせたりする等、西谷ならではの保育が展開されていることも評価できる。今後も、西谷のよさを十分にいかした保育が行われるように期待したい。
- こども園は、子ども達の育ちを保障するだけではなく、親育ての役割を担う場であるとも考える。保護者が子育ての素晴らしさを感じられるような取組を期待したい。保護者、地域、園が共に手を取り合っって子ども達のためにできることを考えていきたい。そのために必要なことは、地域の皆でも応援できるように声掛けを行っていきたい。